

Title	大学国際化指標体系の構築
Author(s)	渡部, 由紀; 太田, 浩; 新田, 功; 野田, 文香; 金, 性希; 武田, 巧
Citation	「デルファイ法による大学国際化指標体系の構築」研究報告書: 57-71
Issue Date	2016-07
Type	Research Paper
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10086/28865
Right	

IV 大学国際化指標体系の構築

渡部由紀・太田浩・新田功・野田文香・金性希・武田巧

〔1〕はじめに

本章では、大学と学生を対象とした大学の国際化指標に関する調査の分析結果から、本研究の目的である日本の大学の国際化を評価する大学国際化指標体系を提案する。大学国際化指標体系を提案するにあたり、その前提として、最初に、ここで意図する国際化評価を定義し、次に国際化指標を選定する際に重要な国際化のアプローチと目的について述べる。最後に、3段階の指標群から成る国際化指標体系について説明する。

〔2〕大学の国際化を評価するにあたって

本章では大学の国際化評価を大学による国際化の現状の自己評価と定義し、自大学の国際化の進捗状況を把握するために必要な指標体系を提案する。自大学の国際化の進捗状況を把握するには、まず大学が何のために国際化を行っているのか（国際化の目的）、そして国際化の目的を達成するために、どのような方策または戦略（国際化のアプローチ）を取っているのかを明確にする必要がある。例えば、2つの大学が国際化の目的に「教育の質の向上」を掲げていたとする。しかし、国際化のアプローチがA大学では「国内における大学の評判・知名度向上（優秀な国内学生の獲得）の手段としての国際化アプローチ」を取っており、B大学では「ワールドクラスの大学（世界的エリート大学）を目指す競争型アプローチ」を取っているとすれば、国際化の目的である「教育の質の向上」を達成するための国際化の施策は異なり、その結果、国際化を評価する指標も異なってくる。国際化指標は、大学が自大学の国際化の目的とアプローチを十分に理解してはじめて、国際化を評価する指標としての有効性が判断可能となる。

国際化の目的もアプローチも各大学が自ら設定するものではあるが、先行研究で提案された国際化の目的とアプローチを日本のコンテキストに合わせて意識し、表4.1と表4.2にまとめた。

表 4.1 大学国際化の目的

A	教育の質の向上
B	研究の質の向上
C	学生を異文化社会、またグローバル社会で上手く暮らし働いていけるよう準備させること
D	大学の国際的評判や知名度の向上
E	社会貢献

出典：IMPI Toolbox Introductory Tutorial の Goal dimension (http://www.impi-project.eu/pdf/IMPI_Toolbox_Tutorial_2012-03-14.pdf) を筆者が日本語訳した。

表 4.2 国際化のアプローチ

I	ワールドクラスの大学(世界的エリート大学)を目指す競争型アプローチ
II	海外における大学の評判・知名度向上のための教育や研究における協力・ネットワーク型アプローチ
III	国内における大学の評判・知名度向上(優秀な国内学生の獲得)の手段としての国際化アプローチ
IV	大学の生き残りをかけた(大学存続または大学の競争力維持のために留学生獲得が不可欠)国際化アプローチ

出典：Van der Wende, M., Coate, K., Kontigiannopoulou-Polydorides, G., Luijten-Lub, A., Papadiamantaki, Y., Stamelos, G., et al. (2005). International comparative analysis. In J. Huisman & M. Van der Wende (Eds.), *On cooperation and competition II: Institutional responses to internationalisation, Europeanisation and globalisation* (pp. 201-233). Bonn, Germany: Lemmens を筆者が日本のコンテキストに合わせて意識した。

[3] 大学国際化指標体系の構築－3段階の国際化指標群－

大学国際化指標体系を構築する上で、2つのことを重視した。第1に、大学の多様な国際化のあり方に対応できる幅広い選択肢を提示することである。第2に、国際化の定義が「高等教育の目的、機能、提供の在り方に国際的、異文化的、またはグローバルな次元を統合していくプロセス (Knight, 2003, p. 2)」であるとすれば、異なる段階にある大学の国際化を検証する上で、使いやすい指標体系を構築することである。

この2つの視点を前提として、各大学が自校の国際化の現状を自己評価できるという点においての有効性と重要性に基づいて、150指標を次の3つの指標群に分類した。(1) 基本的な国際化の指標群 (レベル1)、(2) 選択的な国際化の指標群 (レベル2)、(3) 包括的な国際化の指標群 (レベル3)。表4.3～4.5は各指標群をそれぞれまとめたものである。指標の有効性または重要性は、平均値と変動係数に基づき、分類した。指標はその平均値が高いほうが、大学の国際化において有効性または重要性が高い。そして、変動係数は小さいほうが、大学間でその指標の有効性また重要性についての認識にばらつきがないことを意味する。

まず、レベル1の「基本的な国際化の指標群」は34指標から成り、日本の多くの大学の国際化において、重要性の高い評価指標である（表4.3参照）。これらの指標は、当研究グループが行った先行研究「グローバルな競争環境下における大学国際化評価に関する研究」の結果に基づいて選定した53の有効な国際化指標の中から選定した。その基準は、SGU大学を対象に質問調査を実施した結果、重要性の平均値が高く、大学間で重要性の認識のばらつきが相対的に低かった指標である。重要性の平均値は、3点が最高点である。

表4.3 基本的な国際化の指標群（レベル1）

指標分野 ・番号	IMPI No.	指標の内容	重要性の 平均値	変動 係数
1)学生				
学生5	01-061	当該年度に卒業した学生のうち、海外留学や研修を経験した学生の割合は	2.59	21.6
学生4	01-051	大学が提供する交換留学先(海外の協定大学)の量と質は、学生の需要に応えられているか	2.50	26.9
学生1	01-009	当該年度の学位取得者全体に占める留学生(受入れ)の割合は	2.25	31.9
2)教職員				
教職員1	02-045	当該年度の教員全体に占める、外国籍の教員の割合は	2.25	29.9
教職員2	02-038	当該年度に、外国語で授業(語学科目を除く)を行った教員の割合は	2.28	29.9
教職員3	02-009	教職員の昇進やテニユア(終身在職権)取得にあたって、海外での就労経験や教育・研究活動は考慮されているか	2.03	31.8
3)組織				
組織1	03-001	国際化のための戦略が明確に設定されているか	2.72	16.8
組織6	03-015	留学生(受入れ)の数値目標を設定しているか	2.50	24.9
組織7	03-016	海外派遣(送出し)学生の数値目標を設定しているか	2.50	24.9
組織5	03-013	国際教育プログラム(事前・事後の支援を含む)に対して、質保証の仕組み(例:学生に対する満足度調査等)があるか	2.38	25.6
組織2	03-002	国際化のための人的リソースに関する方針が明確に設定されているか	2.28	27.8
組織3	03-007	国際化の取り組みの責任の所在は中央組織レベルおよび下部組織レベルでそれぞれ明確にされているか	2.22	29.7
組織8	03-018	国際化の達成度を測定するための方法が明確に設定されているか	2.22	24.9
4)資金・財政				
資金・財政4	04-019	国際化の取り組みのための予算を継続的に確保するための戦略あるいは計画があるか	2.53	24.5
資金・財政1	04-001	当該年度における国際化関連の予算の総額は	2.34	27.9
5)教育				
教育2	05-002	留学生(受入れ)に対して、特有の勉学事情に対応した支援(日本語教育、チューター制度等)を行っているか	2.50	22.7

指標分野 ・番号	IMPI No.	指標の内容	重要性の 平均値	変動係数
教育10	05-080	英語で情報プラットフォーム(ウェブサイト等)を構築し、自校での学習環境についての情報(学事暦や試験のスケジュール等)、授業科目の情報(シラバス等)、履修の手引き等を提供しているか	2.38	27.8
教育9	05-072	海外で取得した単位の認定について規則や基準を定め、認定プロセスを制度化しているか	2.38	23.3
教育6	05-030	当該年度に提供されるすべての授業科目のうち、英語で行われる授業科目(語学科目を除く)の割合は	2.38	27.8
教育1	05-001	海外派遣(送出し)学生に対して、特有の勉学事情(スタディ・スキルや外国語での専門用語等)に対応した支援を行っているか	2.25	27.7
教育11	05-087	単位として認められる海外派遣留学プログラムの数は	2.22	33.8
教育7	05-058	留学生(受入れ)の就職支援を行っているか	2.00	31.1
教育4	05-010	学生に対し、カリキュラム上で国際教育/異文化間教育の学習到達目標およびその指標を明示しているか	2.00	33.6
7) 広報宣伝				
広報宣伝2	07-005	大学のウェブサイトは、1つ以上の外国語で留学生(受入れ)向けページが開設されているか	2.28	27.8
広報宣伝3	07-007	大学のウェブサイト、海外派遣(送出し)学生および留学生(受入れ)向けの奨学金プログラムに関する情報が掲載されているか	2.06	30.0
8) 支援				
学生支援4	08-010	留学生(受入れ)に対し、到着後にオリエンテーション等を通して、必要な情報を包括的に提供しているか(たとえば、入学手続の場所、到着を報告する担当者、滞在先の入居手続に関する情報等)	2.34	29.9
学生支援3	08-008	留学生(受入れ)に対し、到着までに必要な情報を包括的に提供しているか(たとえば、ビザ取得手続、生活費、授業料、宿泊施設[学生寮・アパート等]、大学から提供されるサービス・スポーツ・課外文化活動に関する情報等)	2.31	27.9
学生支援2	08-002	「留学生センター」あるいはそれに類する留学生(受入れ)支援のための組織は設置されているか	2.25	31.9
学生支援18	08-017	留学生(受入れ)が緊急事態に遭遇した場合に備えて、対策チームや手続の方法が定められているか	2.19	31.7
学生支援11	08-022	留学生(受入れ)のビザや滞在・就労許可書類の取得にあたって、支援を行っているか	2.09	30.6
学生支援6	08-013	留学生(受入れ)のための「メンター制度」あるいは「バディ・システム」といった支援体制が整えられているか	2.06	30.0
学生支援10	08-019	留学生(受入れ)向けに住居斡旋サービスを行っているか	2.03	34.2
学生支援9	08-018	留学生(受入れ)支援は複数の言語で行われているか	2.03	31.8
学生支援1	08-001	文化的に多様な背景を持つ学生のニーズに対応する設備が提供されているか	2.00	33.6

次に、選択的な国際化の指標群は、日本の大学の国際化において、各大学の国際化の目的により指標の重要性は異なるが、国際化指標としては、その有効性が高い評価指標である(表 4.4.A~表 4.4.C 参照)。これらの指標は、先行研究「グローバルな競争環境下における大学国際化評価に関する研究」の結果に基づき選定された 53 の有効な国際化指標について、その重要性について SGU 大学を対象に質問調査を実施した結果、重要性の平均値がそれほ

ど高くない指標、または大学間で重要性の認識にばらつきがあった指標、もしくはそのどちらにも該当する指標である。重要性の平均値は、3点が最高点である。

選択的な国際化の指標群は、国際化の目的により、1) 研究(表 4.4.A)、2) 教育(表 4.4.B)、3) その他(表 4.4.C) に3分類した。この指標群の指標数は、1) 研究が6指標、2) 教育が9指標、3) その他が4指標の、計19指標となっている。また、この指標群については、指標選定の際の参考資料として、学生による国際化指標の評価結果である国際化指標の重要性の平均値(最高点は3点)も提示した。平均値のない指標は、学生が「重要性を判断するのが難しい、またはよくわからない」とした指標である。

表 4.4.A 選択的な国際化評価の指標群：研究（レベル2）

指標分野 ・番号	IMPI No.	指標の内容	全体		タイプA		タイプB	
			重要性 の平均	変動 係数	重要性 の平均	変動 係数	重要性 の平均	変動 係数
6) 研究活動								
研究活動6	06-062	在籍教員／研究者による国際的な研究活動の被引用実績(たとえば、SCI[Science Citation Index : トムソン・ロイター社による文献引用のデータベース]による評価等)として、論文あたりの被引用数は	2.31	35.5	2.9	10.9	2.05	41.3
研究活動5	06-033	当該年度に、在籍する教員／研究者が単独(あるいは共同)で執筆した論文のうち、外国語で執筆され、かつ査読／ピア・レビュー(同分野の学者による審査)ありの学術誌に掲載されたものの件数と割合は	2.25	35.7	2.7	17.9	2.05	41.3
研究活動4	06-031	当該年度に、在籍する教員／研究者が単独(あるいは共同)で執筆した刊行物(著書、学術雑誌、論文等)の国際的な出版点数は、在籍する教員／研究者総数に対してどれぐらいの比率であったか	2.03	38.5	2.5	28.3	1.82	40.3
研究活動1	06-018	当該年度に、国外で(あるいは国内の国際学会で)行われた学会発表の合計件数は、在籍する教員／研究者総数に対してどれぐらいの比率であったか	1.97	32.9	2.2	28.7	1.86	34.3
研究活動2	06-021	当該年度に、大学が公式に関与し、国際的な助成金を受けた研究プロジェクトの割合は	1.97	32.9	2.2	28.7	1.86	34.3
研究活動3	06-023	当該年度に、大学が公式に関与し、外国の協力機関と共同で行われた研究プロジェクトの割合は	1.97	35.3	1.9	29.9	2	37.8

表 4.4.B 選択的な国際化の指標群：教育（レベル2）

指標分野 ・番号	IMPI No.	指標の内容	全体		タイプA		タイプB		学生評価 重要性の 平均
			重要性 の平均	変動 係数	重要性 の平均	変動 係数	重要性 の平均	変動 係数	
1) 学生									
学生2	01-010	当該年度の留学生（受入れ）全体のうち、交換留学など「学位取得を目的としない」1年以内の留学生の割合は	1.91	3.85	1.7	3.97	2.00	3.78	—
学生3	01-012	当該年度の留学生（受入れ）の出身国の数は	1.63	4.62	1.5	4.71	1.68	4.64	2.06
4) 資金・財政									
資金・財政2	04-003	当該年度に、大学内外から奨学金を受給した海外派遣（送出し）学生の割合は	1.97	3.53	2.0	3.33	1.95	3.7	2.13
	04-005	当該年度に、大学内外から奨学金を受給した留学生（受入れ）の割合は	1.84	3.92	1.9	3.88	1.82	4.03	2.12
5) 教育									
教育8	05-070	教育活動や卒業要件に、外部の語学検定試験（TOEFL、TOEIC、IELTS等）を活用しているか	1.91	3.85	1.7	3.97	2.00	3.78	—
教育5	05-020	当該年度に、各学位課程で提供された国際共同学位（国際ダブル・ディグリー・プログラムや国際ツィニング・プログラム等）の数は	1.88	4.01	2.4	2.91	1.64	4.02	2.10
教育3	05-008	インターナショナル・ディプロマ・サプリメント（国ごとの学位システムの相違を補うため、学位・資格の内容について一定の書式に基づいた英語の説明書で、学位証に添付して発行される）は導入されているか	1.66	3.63	1.8	2.34	1.59	4.19	2.25
8) 支援									
学生支援7	08-014	留学生（受入れ）に対し、国内出身の学生との交流を促進する支援体制が整えられているか	2.00	3.59	1.7	4.84	2.14	2.99	2.25
学生支援5	08-012	留学生（受入れ）が地域での交流活動に参加したい場合、サービスや支援を行っているか	1.72	3.04	1.6	3.23	1.77	2.98	1.98

表 4.4.C 選択的な国際化の指標群：その他（レベル2）

指標分野 ・番号	IMPI No.	指標の内容	全体		タイプA		タイプB		学生評価 重要性の 平均
			重要性 の平均	変動 係数	重要性 の平均	変動 係数	重要性 の平均	変動 係数	
2) 教職員									
教職員4	02-048	当該年度の職員全体に占める、外国人職員の割合は	1.47	42.3	1.4	36.9	1.50	44.8	—
3) 組織									
組織4	03-009	国際化を推進するための専門的な組織（インターナショナル・オフィス等）が設置されているか	2.06	36.8	2.1	35.1	2.05	38.4	2.52
7) 広報宣伝									
広報宣伝1	07-001	国際的な広報活動（情報発信、宣伝、マーケティング等）のための明確な指針を設けているか	2.00	38.1	2.2	35.9	1.91	39.3	2.04
8) 支援									
教職員支援	08-035	職業上の目的で海外に行く教職員のビザや居住・労働許可書類の取得にあたって、支援を行っているか	1.78	39.7	1.9	29.9	1.73	44.4	2.02

最後に、包括的な国際化の指標群は、国際化の基盤が整い、さらに国際化を促進させる段階にある大学、また包括的に国際化を促進したいと考えている大学に向けて、より包括的に国際化を評価するための指標群として、用意した（表 4.5 参照）。包括的な国際化の指標群の指標数は 97 となっている。これらの指標については、その指標の選定を判断する情報として、国際化を積極的に推進している 141 大学が評価した指標の有効性の平均値と変動係数、そして、指標に関するデータを実際に収集している大学の割合を提供した。例えば、指標 No. 01-003「当該年度に、交換留学制度ないし大学が提供する留学プログラム（研修を含む）で海外留学した学生の割合は」は有効性の平均値が 3.72 で、変動係数が 1.26 である。その平均値は「大変有効」の 4 点に非常に近いので、その有効性が非常に高いと認識されていることがわかる。また変動係数は 1.26 であり、141 大学の間でその有効性に対する認識にばらつきが相対的に低いことがわかる。したがって、IMPI No. 01-003 の指標は、多くの大学にとって、有効な指標だと認識されているということがわかる。また、関連データを収集している大学の割合が 87.9% と非常に高くなっており、大学にとって利用しやすい指標であることが予測できる。

もう 1 つの参考資料として、基本的な国際化の指標群または選択的な国際化の指標群に類似した指標がある場合は、その指標番号も記載した。各大学の国際化を評価する際に、どちらの指標がより適切か、または両指標とも必要かを検討するのに利用してほしい。

表 4.5. 包括的な国際化の指標群（レベル 3）

番号	IMPI No.	指標の内容	有効性の平均	変動係数	関連データ収集機関の割合	類似指標
1) 学生						
1	01-003	当該年度に、交換留学制度ないし大学が提供する留学プログラム（研修を含む）で海外留学した学生の割合は	3.72	12.6	87.9%	01-061
2	01-105	外国人留学生のうち、学位授与課程に在籍する学生の割合は	3.25	21.2	75.2%	
3	01-011	当該年度の留学生（受入れ）の総数は、その前の年度と比較して何パーセント増加、あるいは減少したか	3.24	21.5	73.8%	
4	01-053	派遣留学（送出し）の財政的支援に対する学生の満足度は	3.17	19.3	19.1%	
5	01-054	海外の大学で取得した単位の認定に関する学生の満足度は	3.15	21.5	17.7%	
6	01-004	当該年度に、大学が提供する留学プログラム（研修を含む）以外で海外留学や研修をした学生数は	3.15	21.9	45.4%	
7	01-087	交換・短期留学生（受入れ）に対して、受入れ先の大学（貴学）が留学中の単位認定のために行った支援に対する満足度は	3.14	20.4	12.1%	
8	01-028	当該年度に学位授与課程を卒業／修了した全学生のうち、国際共同学位プログラム（国際ダブル・ディグリー・プログラムや国際ツインニング・プログラム等）を卒業／修了した学生の数は	3.09	25.6	27.7%	

番号	IMPI No.	指標の内容	有効性の平均	変動係数	関連データ収集機関の割合	類似指標
9	01-086	留学生(受入れ)に対して、受入れ先の大学(貴学)が行った留学生向けの入学前サポートに対する満足度は	3.08	20.0	10.6%	
10	01-023	留学生(受入れ)を含む同窓生のデータベースを構築しているか	3.01	26.4	28.4%	
11	01-024	当該年度において、海外に派遣(送出し)した学生と海外から受入れた留学生の人数比は	2.94	27.3	68.8%	
12	01-029	当該年度に、外国の高等教育機関とのcotutelles(博士論文共同指導)を受けた学生の人数は	2.81	29.1	7.1%	
13	01-013	当該年度の留学生(受入れ)のうち、英語で授業が行われる教育課程に在籍する学生の割合は	2.81	29.5	29.1%	
14	01-022	当該年度に、日本でインターンシップを行った留学生(受入れ)の割合は	2.81	25.5	22.7%	
15	01-038	当該年度に博士課程に在籍した全学生のうち、英語で学位論文を執筆した学生の割合は	2.71	29.4	16.3%	
2)教職員						
1	02-022	当該年度に、教員交流プログラムで海外に派遣された教員の数は	3.11	23.7	36.2%	
2	02-039	授業やカリキュラムを国際化する方法を教員が学ぶ機会を設けているか	3.09	25.2	10.6%	
3	02-010	外国語の運用能力について、一定レベル以上(公的な検定試験(TOEFLやIELTS等)を基準として)を持つ教職員の割合は	3.07	23.3	12.1%	
4	02-047	当該年度の教員全体に占める、外国の大学から招聘した教員の割合は	3.05	22.7	39.0%	
5	02-001	当該年度において、協定に基づき海外に派遣した教職員と、海外から受入れた外国人教職員の比率は	3.01	25.8	44.0%	
6	02-029	当該年度の教員全体に占める、国外の大学で授与された学位を持つ教員の割合は	2.98	22.6	37.6%	
7	02-028	当該年度に、外国人招聘教員は何か国から来ていたか	2.92	23.6	44.7%	
8	02-055	当該年度に、異文化理解・コミュニケーションの習得のための研修を受けた職員の割合は	2.90	25.9	13.5%	
9	02-006	海外で6ヵ月以上の実務経験をもつ職員の割合は	2.89	26.8	17.0%	
10	02-041	当該年度の教員全体に占める、博士課程レベルの大学院生の研究指導を外国の大学と共同で行った教員の割合は	2.89	26.3	2.1%	
11	02-021	当該年度に、海外で行われる研修プログラムに参加した職員の割合は	2.87	27	29.8%	
12	02-056	当該年度に、英語の語学研修を受けた職員の割合は	2.86	26.7	29.1%	
13	02-077	全教員のうち、交換留学や海外留学・研修プログラムの運営(引率等を含む)に参加した教員の割合は	2.86	24.3	26.2%	
14	02-059	当該年度に、国外の機関における研修プログラムに参加した職員の数は	2.85	26.3	21.3%	
15	02-033	当該年度の教員全体に占める、国際学会あるいは専門家の国際組織で委員や役員を務めた教員の割合は	2.85	23.1	8.5%	
16	02-012	教職員の昇進やテニユア(終身在職権)取得にあたって、外国語運用能力は考慮されているか	2.73	26.4	2.8%	
17	02-063	国際交流事業の中心的な部分(国際化戦略や基本的方針の検討、共同研究、学生のカウンセリングや個人指導、卒業生・入試業務の取扱い)を担当するポストをFull-Time Equivalent(正規雇用相当)で数えた場合、運営ポストの総数に対してどれくらいの比率を占めるか	2.71	27.6	5.0%	

番号	IMPI No.	指標の内容	有効性の平均	変動係数	関連データ収集機関の割合	類似指標
18	02-057	当該年度に、英語以外の外国語の語学研修を受けた職員の割合は	2.66	30.9	12.8%	
19	02-093	英語で科目を提供する教員に何らかのインセンティブを付与しているか	2.62	33.5	2.8%	
3) 組織						
1	03-019	国際化の達成度を測定した結果は、教育の質的向上のために活用されているか	3.42	20.2	3.5%	03-013
2	03-027	国際化の取り組みを行う際の規則や手続きを明確な形で定めているか	3.29	21.4	22.7%	03-007
3	03-037	当該年度における海外の大学との大学間交流協定の数は	3.28	19.4	74.5%	
4	03-012	国際化の取り組みを行っている国際的な組織やネットワークに参加しているか	3.22	22.1	21.3%	
5	03-024	学生の海外派遣(送出し)に際して、多様化の方針(学生の派遣先・送出し先の多様化)が適用されているか	3.18	23.3	21.3%	
6	03-005	卒業した留学生に対するフォローアップの方針が明確に設定されているか	3.16	24.7	5.7%	
7	03-022	留学生(受入れ)に対して、多様化の方針(留学生の出身国の多様化)が適用されているか	3.13	23.0	19.1%	
8	03-023	教職員を国外から雇用する際、多様化の方針(教職員の出身国の多様化)が適用されているか	2.9	25.6	9.9%	
4) 資金・財政						
1	04-032	国際学生交流のために、外部資金(奨学金等)を受けているか	3.19	21.2	46%	
2	04-013	当該年度において、国際共同プロジェクトのために獲得した外部資金の総額は	3.14	21.4	26%	
3	04-033	国際学術交流(教員/研究者対象)のための助成金として配分された予算額は	3.11	20.3	31%	
4	04-031	当該年度において、大学の予算総額のうち、「インターナショナル・オフィス」あるいはそれに類する組織に配分された予算額の割合は	3.08	24.7	38%	
5	04-004	当該年度の派遣学生用の奨学金の定員数は、派遣(送出し)学生全体の定員総数との比率にしてどれくらいあったか	3.08	24.3	43%	
6	04-007	当該年度において、大学の国際共同研究関連予算の総額は	3.04	21.9	18%	
7	04-014	当該年度に大学が獲得した外部資金のうち、国際共同プロジェクトに配分された割合は	2.98	20.3	20%	
8	04-006	当該年度において、大学の奨学金予算の総額のうち、留学生(受入れ)対象の奨学金予算に配分された割合は	2.97	25.5	40%	
9	04-012	当該年度の大学の予算総額のうち、国際的な広報・宣伝活動に配分された予算の割合は	2.92	23.3	23%	
10	04-016	当該年度の大学の予算総額のうち、外国語で論文を作成するための支援(翻訳や校閲)に配分された予算の総額は	2.54	30.8	9%	
5) 教育						
1	05-027	留学生(受入れ)を対象とする日本語研修を行っているか	3.44	17.9	53.9%	05-002
2	05-028	外国語で提供する教育課程の拡充に向けた目標を明確に設定しているか	3.24	23.1	11.3%	
3	05-003	カリキュラムにいわゆる”モビリティ・ウィンドウ”(教育課程にあらかじめ組み込まれた海外留学のための期間—海外留学は必須の場合も選択の場合もある)を設けているか	3.22	22.1	14.9%	

番号	IMPI No.	指標の内容	有効性の平均	変動係数	関連データ収集機関の割合	類似指標
18	02-057	当該年度に、英語以外の外国語の語学研修を受けた職員の割合は	2.66	30.9	12.80%	
19	02-093	英語で科目を提供する教員に何らかのインセンティブを付与しているか	2.62	33.5	2.80%	
3) 組織						
1	03-019	国際化の達成度を測定した結果は、教育の質的向上のために活用されているか	3.42	20.2	3.50%	03-013
2	03-027	国際化の取り組みを行う際の規則や手続きを明確な形で定めているか	3.29	21.4	22.70%	03-007
3	03-037	当該年度における海外の大学との大学間交流協定の数は	3.28	19.4	74.50%	
4	03-012	国際化の取り組みを行っている国際的な組織やネットワーク*に参加しているか	3.22	22.1	21.30%	
5	03-024	学生の海外派遣(送出し)に際して、多様化の方針(学生の派遣先・送出し先の多様化)が適用されているか	3.18	23.3	21.30%	
6	03-005	卒業した留学生に対するフォローアップの方針が明確に設定されているか	3.16	24.7	5.70%	
7	03-022	留学生(受入れ)に対して、多様化の方針(留学生の出身国の多様化)が適用されているか	3.13	23.0	19.10%	
8	03-023	教職員を国外から雇用する際、多様化の方針(教職員の出身国の多様化)が適用されているか	2.9	25.6	9.90%	
4) 資金・財政						
1	04-032	国際学生交流のために、外部資金(奨学金等)を受けているか	3.19	21.2	46.10%	
2	04-013	当該年度において、国際共同プロジェクトのために獲得した外部資金の総額は	3.14	21.4	26.20%	
3	04-033	国際学術交流(教員/研究者対象)のための助成金として配分された予算額は	3.11	20.3	31.20%	
4	04-031	当該年度において、大学の予算総額のうち、「インターナショナル・オフィス」あるいはそれに類する組織に配分された予算額の割合は	3.08	24.7	38.30%	
5	04-004	当該年度の派遣学生用の奨学金の定員数は、派遣(送出し)学生全体の定員総数との比率にしてどれくらいあったか	3.08	24.3	43.30%	
6	04-007	当該年度において、大学の国際共同研究関連予算の総額は	3.04	21.9	17.70%	
7	04-014	当該年度に大学が獲得した外部資金のうち、国際共同プロジェクトに配分された割合は	2.98	20.3	19.90%	
8	04-006	当該年度において、大学の奨学金予算の総額のうち、留学生(受入れ)対象の奨学金予算に配分された割合は	2.97	25.5	39.70%	
9	04-012	当該年度の大学の予算総額のうち、国際的な広報・宣伝活動に配分された予算の割合は	2.92	23.3	22.70%	
10	04-016	当該年度の大学の予算総額のうち、外国語で論文を作成するための支援(翻訳や校閲)に配分された予算の総額は	2.54	30.8	9.20%	
5) 教育						
1	05-027	留学生(受入れ)を対象とする日本語研修を行っているか	3.44	17.9	53.90%	05-002
2	05-028	外国語で提供する教育課程の拡充に向けた目標を明確に設定しているか	3.24	23.1	11.30%	
3	05-003	カリキュラムにいわゆる”モビリティ・ウィンドウ”(教育課程にあらかじめ組み込まれた海外留学のための期間—海外留学は必須の場合も選択の場合もある)を設けているか	3.22	22.1	14.90%	

番号	IMPI No.	指標の内容	有効性の平均	変動係数	関連データ収集機関の割合	類似指標
4	05-037	当該年度に提供された学位授与課程プログラムのうち、授業がすべて英語で行われるプログラムの数は	3.18	26.1	29.1%	
5	05-088	単位として認められる海外インターンシップの数は	3.17	25.4	25.5%	
6	05-068	派遣(送出し)学生向けに、留学前の外国語研修科目を提供しているか	3.03	26.1	20.6%	
7	05-009	当該年度に、海外に派遣した(送出した)学生が派遣先の大学で取得した単位数の総計は	3.03	21.0	31.9%	
8	05-011	当該年度に提供された、学位授与課程に含まれるすべての教育要素や科目のうち、国際／異文化理解・コミュニケーションの習得を目的とするものの数は	3.02	22.3	19.9%	
9	05-064	当該年度に、海外派遣(送出し)された学生一人あたりの海外で取得した平均単位数は	3.01	23.0	24.1%	
10	05-074	海外留学先で取得した単位のうちで、認定された単位数は(平均)何単位か	3.01	23.6	32.6%	
11	05-016	学位授与課程がその学問分野での適切な国際基準や動向に沿ったものかどうかを評価するベンチマーキングを行ったことがあるか	2.99	26.2	3.5%	
12	05-085	外国の大学や高等教育機関等に所属する教員が行う科目／授業(たとえば、e-ラーニングや客員教授等の形で)を提供しているか	2.97	22.2	9.2%	
13	05-060	当該年度に提供された、学位授与課程に含まれるすべての教育要素や科目のうち、国際的な活動を伴う社会参加やサービス・ラーニングを行うものの数は	2.93	24.1	9.2%	
14	05-038	当該年度に提供された学位授与課程プログラムのうち、専門科目が3分の1以上英語で行われるプログラムの数は	2.87	30.0	11.3%	
15	05-043	当該年度に、授業がすべて英語で行われる学位授与課程プログラムに在籍した学生のうち、留学生(受入れ)の割合は	2.83	29.0	21.3%	
16	05-059	当該年度に、英語で行われた授業科目(語学科目は除く)について、一科目あたりの平均履修者数は	2.76	27.8	20.6%	
17	05-057	当該年度に提供したすべての科目のうち、留学生(受入れ)専用の科目の数は	2.73	27.7	37.6%	
18	05-044	当該年度に、専門科目が3分の1程度以上英語で行われる学位授与課程プログラムに在籍した学生のうち、留学生(受入れ)の割合は	2.68	29.9	9.2%	
19	05-049	当該年度に、すべての教育課程を国外で提供する学位授与課程プログラムの割合は	2.5	34.8	2.8%	
6) 研究活動						
1	06-052	当該年度における国際共同研究プロジェクトの数は	3.17	20.1	22.0%	06-021
2	06-028	当該年度に、在籍する教員／研究者の出版したすべての刊行物(著書、学術雑誌、論文等)のうち、国際共同研究の成果であるものの割合は	3.13	20.7	7.1%	
3	06-040	当該年度に在籍したすべての教員／研究者のうち、高頻度被引用研究者(HiCi : Highly Cited Author)とされた研究者の割合は	3.06	23.5	5.7%	
4	06-054	当該年度に、教員／研究者が外国に招聘されて行った発表／基調講演の件数は	3.06	20.4	12.8%	
5	06-016	当該年度に、外国の協定機関との共同研究プロジェクトに少なくとも1つ以上関わった教員／研究者の割合は	3.02	21.3	15.6%	
6	06-066	当該年度に、国際共著で出版した刊行物(著書、学術雑誌、論文等)の数は	3.02	25.0	11.3%	

番号	IMPI No.	指標の内容	有効性の平均	変動係数	関連データ収集機関の割合	類似指標
4	05-037	当該年度に提供された学位授与課程プログラムのうち、授業がすべて英語で行われるプログラムの数は	3.18	26.1	29.10%	
5	05-088	単位として認められる海外インターンシップの数は	3.17	25.4	25.50%	
6	05-068	派遣(送出し)学生向けに、留学前の外国語研修科目を提供しているか	3.03	26.1	20.60%	
7	05-009	当該年度に、海外に派遣した(送出した)学生が派遣先の大学で取得した単位数の総計は	3.03	21.0	31.90%	
8	05-011	当該年度に提供された、学位授与課程に含まれるすべての教育要素や科目のうち、国際／異文化理解・コミュニケーションの習得を目的とするものの数は	3.02	22.3	19.90%	
9	05-064	当該年度に、海外派遣(送出し)された学生一人あたりの海外で取得した平均単位数は	3.01	23.0	24.10%	
10	05-074	海外留学先で取得した単位のうちで、認定された単位数は(平均)何単位か	3.01	23.6	32.60%	
11	05-016	学位授与課程がその学問分野での適切な国際基準や動向に沿ったものかどうかを評価するベンチマーキングを行ったことがあるか	2.99	26.2	3.50%	
12	05-085	外国の大学や高等教育機関等に所属する教員が行う科目／授業(たとえば、e-ラーニングや客員教授等の形で)を提供しているか	2.97	22.2	9.20%	
13	05-060	当該年度に提供された、学位授与課程に含まれるすべての教育要素や科目のうち、国際的な活動を伴う社会参加やサービス・ラーニングを行うものの数は	2.93	24.1	9.20%	
14	05-038	当該年度に提供された学位授与課程プログラムのうち、専門科目が3分の1以上英語で行われるプログラムの数は	2.87	30.0	11.30%	
15	05-043	当該年度に、授業がすべて英語で行われる学位授与課程プログラムに在籍した学生のうち、留学生(受入れ)の割合は	2.83	29.0	21.30%	
16	05-059	当該年度に、英語で行われた授業科目(語学科目は除く)について、一科目あたりの平均履修者数は	2.76	27.8	20.60%	
17	05-057	当該年度に提供したすべての科目のうち、留学生(受入れ)専用の科目の数は	2.73	27.7	37.60%	
18	05-044	当該年度に、専門科目が3分の1程度以上英語で行われる学位授与課程プログラムに在籍した学生のうち、留学生(受入れ)の割合は	2.68	29.9	9.20%	
19	05-049	当該年度に、すべての教育課程を国外で提供する学位授与課程プログラムの割合は	2.5	34.8	2.80%	
6) 研究活動						
1	06-052	当該年度における国際共同研究プロジェクトの数は	3.17	20.1	22.00%	06-021
2	06-028	当該年度に、在籍する教員／研究者の出版したすべての刊行物(著書、学術雑誌、論文等)のうち、国際共同研究の成果であるものの割合は	3.13	20.7	7.10%	
3	06-040	当該年度に在籍したすべての教員／研究者のうち、高頻度被引用研究者(HiCi : Highly Cited Author)とされた研究者の割合は	3.06	23.5	5.70%	
4	06-054	当該年度に、教員／研究者が外国に招聘されて行った発表／基調講演の件数は	3.06	20.4	12.80%	
5	06-016	当該年度に、外国の協定機関との共同研究プロジェクトに少なくとも1つ以上関わった教員／研究者の割合は	3.02	21.3	15.60%	
6	06-066	当該年度に、国際共著で出版した刊行物(著書、学術雑誌、論文等)の数は	3.02	25.0	11.30%	

番号	IMPI No.	指標の内容	有効性の平均	変動係数	関連データ収集機 関の割合	類似指標
7	06-010	当該年度に、客員研究員として3ヵ月以上、海外に赴任した教員／研究者の割合は	3.01	22.9	34.0%	
8	06-053	当該年度に、教員／研究者一人あたりが参加した国際学会の件数は	3.01	20.2	14.9%	
9	06-060	国際的な知識移転(技術移転を含む)プロジェクトの数は	2.96	23.3	12.8%	
10	06-051	当該年度に、二国間／多国間の研究プロジェクトでリーダーを務めた教員／研究者の数は	2.95	24.3	7.8%	
11	06-025	国際的な研究テーマに重点を置いている研究拠点の数は	2.93	25.1	12.8%	
12	06-041	当該年度に在籍した教員／研究者が外国で申請した特許の割合は	2.82	28.7	20.6%	
13	06-044	現在までに在籍する教員／研究者が申請したすべての特許のうち、外国で申請されたものの件数と割合は	2.76	28.8	17.7%	
7) 広報宣伝						
1	07-004	当該年度に参加した外国人留学生向けの説明会やリクルート・イベントの件数と、その翌年度に入学した留学生(受入れ)の人数の比率は	2.88	25.0	16.3%	
2	07-006	当該年度の大学のウェブサイトへの海外からのアクセス数と、その翌年度に入学した留学生(受入れ)の人数の比率は	2.78	26.2	48.9%	
3	07-014	当該年度に国際的な広報活動のために配分された予算額と、その翌年度に入学した留学生(受入れ)数の比率は	2.7	27.3	7.8%	
4	07-011	当該年度の留学生(受入れ)募集活動に参加した、卒業した外国人留学生の数は	2.66	29.6	8.5%	
8) 支援						
1	08-005	学内施設はすべて、留学生(受入れ)も利用できるか	3.6	15.2	44.70%	08-001
2	08-046	派遣(送出し)する学生のうち、出発前のオリエンテーション/トレーニングを利用した学生の割合は	3.27	23.2	46.8%	
3	08-015	留学生(受入れ)のために、キャンパスでの課外活動参加への支援を行っているか	3.22	20.1	29.1%	
4	08-024	当該年度のすべての留学生(受入れ)のうち、ビザや滞在・就業許可書類の取得にあたって、支援を利用した留学生の割合は	2.92	26.1	29.1%	
5	08-031	派遣(送出し)する学生に出発前のオリエンテーション/トレーニングを提供しているか	2.9	26.4	13.5%	
6	08-021	当該年度のすべての留学生(受入れ)のうち、住居斡旋サービスを利用した留学生の数は	2.88	27.4	25.5%	
7	08-057	海外の同窓会向けのニュースレターを発行しているか	2.83	27.2	12.1%	
8	08-056	当該年度に、海外で実施した同窓会関係の活動の数は	2.83	30.3	21.3%	
9	08-054	職業上の目的で海外に行く教職員のうち、ビザや居住・労働許可書類の取得支援を利用する人の割合は	2.65	28.3	7.1%	

[4] おわりに

本研究は大学国際化指標体系の構築を目的としており、本章では、大学と学生を対象とした大学の国際化指標に関する調査の分析結果を基に、大学国際化指標体系を提案した。前述のように、本研究では、大学国際化を評価する指標体系の在り方において、大学の多様な国

国際化の在り方に対応できる幅広い選択肢を提示すること、そして、国際化の定義が「高等教育の目的、機能、提供の在り方に国際的、異文化的、またはグローバルな次元を統合していくプロセス (Knight, 2003, p. 2)」であるとすれば、異なる段階にある大学の国際化を検証する上で、使いやすい指標体系にすることを重視した。

大学国際化指標体系を提案するにあたり、まず国際化評価を定義し、指標を使用する上で前提を明確にした。次に、国際化指標を選定する際に、大学が国際化評価を実施する上で重要な国際化の目的とアプローチについて、先行研究による提案を基に、その重要性に言及した。国際化指標を使用する前提を明らかにした上で、150 指標を分類した 3 段階の国際化指標群、(1) 基本的な国際化の指標群 (レベル 1)、(2) 選択的な国際化の指標群 (レベル 2)、(3) 包括的な国際化の指標群 (レベル 3) を提案した。これらの指標群は国際化評価指標の重要性また有効性についての大学の認識による回答に基づいたものである。

今後、これらの指標群を大学が実際にどのように活用できるかが、これからの課題である。先行研究 (野田・金・太田・渡部、2015) によれば、現在の日本の大学が望む国際化評価の今後の在り方として、自大学のニーズに応じて独自に実施する自己点検・分析として国際化評価を行うだけでなく、国内の他大学との比較を通じて自己点検・分析を行うといった活用方法を要望する意見も多く挙げられており、自大学だけで完結する評価のみならず、国内のピア大学とベンチマーキングを行うことで、国際化の進捗状況に関する自大学の位置づけを相対的に確認したいニーズがあることも確認されている。独自の自己点検や他大学とのベンチマーキングなど、大学が国際化評価を実施する目的やニーズを把握しつつ、その目的に応じて、本研究で提案した指標群をいかに活用できるかを検討し、さらにその指標の有効性を検証していくことを、今後の調査課題としたい。

参考文献

- Knight, J. 2003, Updating the definition of internationalization. *International Higher Education*, 33(Fall), 2-3.
- IMPI Toolbox Introductory Tutorial (Retrieved August 20, 2015, http://www.impi-project.eu/pdf/IMPI_Toolbox_Tutorial_2012-03-14.pdf)
- Van der Wende, M., Coate, K., Kontigiannopoulou-Polydorides, G., Luijten-Lub, A., Papadiamantaki, Y., Stamelos, G., et al., 2005, "International comparative analysis," J. Huisman & M. Van der Wende eds., *On cooperation and competition II: Institutional responses to internationalisation, Europeanisation and globalization*, Bonn, Germany: Lemmens, 201-233.
- 太田浩, 2014, 『グローバルな競争環境下における大学国際化評価に関する研究』2011 - 13年度科学研究費補助金研究成果最終報告書, 一橋大学。
- 野田・金・太田・渡部 (2015) 「日本の大学国際化評価の課題と展望－高等教育機関への意識調査より－」、日本高等教育学会第18回大会、早稲田大学、pp.182-183。 s